

金融商品を選択するポイント

(ア) リスクのある商品

自分のお金を、どのように貯めたり、備えたり、運用するかは、一人ひとりが自由に選択できます。その選択肢の一つに金融商品があります。

では、人々はどのように選択しているのでしょうか。おそらく、一番の決め手は、リスクに対する考え方だと言われています。リスクをもっとも嫌う人は、自分の手元にお金を置いておく方法をとるでしょう。いわゆる「タンス預金」といわれるものです。リスクを避けて、ローリスク・ローリターン（リスクがほとんどないかわりに、収益（リターン）も少ない）を好むという場合は、預貯金を選択することが考えられます。郵便局の定額貯金や銀行の定期預金は、利子が低いかわりに、リスクはほとんどないからです。一方、株式や外貨預金、投資信託は、ハイリスク・ハイリターンの商品（いくら収益が高くても、元手がなくなってしまう可能性（リスク）が高い商品）といえるでしょう。

では、リスクのある金融商品を買う場合は、どうしたらいいのでしょうか。それは、リスクをむやみに恐れるのではなく、リスク管理という考え方を知っておくことでしょう。

リスク管理とは、

1. 「卵を一つのカゴに盛るな！」といった格言があるように、複数の商品に分散して投資する
2. 金融商品によっては長期間保有する
3. ハイリスク・ハイリターンの商品には、余裕のある資金で投資する
4. 同じ金融商品でも投資する時期をずらす

例えば、貯めたお金の中で、子どもの進学資金や使い道が決まっている金額は、郵便局の定額貯金やいくつかの銀行の定期預金にする、そして残りを株式や外貨預金、投資信託にまわすという選択方法もあります。ハイリスク・ハイリターンの商品を購入する場合は、リスク管理のポイントにあるように、いくつかの商品に分けて投資し、時期もずらして投資する（分散投資といいます）という方法もあります。

このように、金融商品には、リスクがあることをよく知った上で、そのリスクとリターンの様々な可能性を見極めて、自分の考えで選択していくことが必要でしょう。

(イ) 安全性・収益性・流動性

金融商品を選ぶために、まず次の金融商品の3つの性格を理解しましょう。

1. 「安全性」	元本が保証されているか、預金保険制度の対象となっているのか、ということ
2. 「流動性」	資金が必要になったとき、すぐ引き出せるのか、換金（かんきん）できるのか、中途解約（ちゅうとかいやく）できるのか、ということ
3. 「収益性」	より高いリターン（収益）が期待できるのか、ということ

これら3つの性格すべてに優れた金融商品は、1つもありません。それぞれの金融商品の長所と短所を理解して、自分のお金の目的別に金融商品を選ぶことが重要なのです。

（出典）金融庁 HP「わたしたちの生活と金融の働き」http://www.fsa.go.jp/fukukyouzai/nyuumon/04_03.html
（平成18年12月時点）